

令和7年度 指定管理施設評価票

1 基本情報

(令和8年3月31日時点)

施設名	港区立介護予防総合センター						
指定管理者	セントラルスポーツ株式会社						
指定期間	令和	7	年	4	月	1	日 ~ 令和 12 年 3 月 31 日
募集方法	公募	グループ化の有無	—	利用料金制の採用	—	使用許可権限の付与	—
施設所管課	保健福祉支援部高齢者支援課						

2 職員体制

(単位：人)

	正規	常勤	非常勤	非正規	常勤	非常勤	委託（シルバー人材センター等）	合計
職員数	9	9	0	65	13	52	3	77
	令和7年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考	
正規・非正規職員の退職者数	7							

3 指定期間における事業実績

事業実績	令和7年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考
利用者数（人）	68,006					
個人登録者数（人）	2,154					
団体登録者数（団体）	40					

4 指定期間における経費実績

(単位：円)

項 目	令和7年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考
経費実績	収入	215,868,164	0	0	0	0
	指定管理料（清算後）	215,868,164				
	利用料金収入	0				
	その他収入	0				
	支出	215,374,574	0	0	0	0
	職員人件費	132,632,642				
	光熱水費	0				
	修繕費	553,289				
	事業運営費	49,502,943				
	施設管理経費	235,700				
	その他経費	32,450,000				
	差引収支額	493,590	0	0	0	0
年度協定書で定める指定管理料		215,868,164				

5 管理運営状況に対する評価

項 目		評価視点	指定管理者に よる評価	区による評価		
				評価	加算	点数
【施設の 維持管理】	① 設備機器の保守管理	仕様書等に従い、適切に設備機器の保守管理が行われ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	3 / 5	×1	3 / 5
	② 清掃及び衛生管理	仕様書等に従い、適切に清掃及び衛生設備の保守管理が行われ、施設が清潔に保たれていたか。	- / -	- / -	×1	- / -
	③ 修繕対応	迅速に修繕がなされ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	5 / 5	×1	5 / 5
【事業運営】	④ サービスの向上	事業計画書で定めた事業を適切に実施するとともに、公募時の提案や利用者の声等を事業に反映するなどサービス向上を図っていたか。	5 / 5	5 / 5	×5	25 / 25
	⑤ 職員配置	事業計画書等で定めたとおり、必要な知識や技能を持った職員が適正に配置されていたか。	5 / 5	5 / 5	×2	10 / 10
	⑥ 人材育成	施設長や職員に対する研修などにより、サービスの向上に向けたスキルアップに取り組んでいたか。	5 / 5	5 / 5	×1	5 / 5
	⑦ 労働環境	区が定める最低賃金水準額を遵守するとともに、ハラスメントが通報されないなど、職員にとって良好な労働環境が確保されていたか。	5 / 5	5 / 5	×2	10 / 10
	⑧ 安全管理・危機管理	施設の日常安全点検を実施するとともに、災害や事件・事故発生時の体制や対応の確立などにより、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	5 / 5	×3	15 / 15
	⑨ 個人情報保護・ 情報セキュリティ	個人情報や情報セキュリティの社内規程を整備し、区の規程とともに遵守して、適正に運用していたか。	5 / 5	5 / 5	×1	5 / 5
	⑩ 区施策への協力	高齢者や障害者の雇用促進、区内事業者の活用、施設の省エネ促進等、区の施策を理解し積極的に協力していたか。	3 / 5	1 / 5	×3	3 / 15
				区による評価合計点		81 / 95

【各項目の評価について】

5点：当該項目に係る事項については、充実した取組が展開されていた。

3点：当該項目に係る事項については、概ね適切に取り組んでいた。

1点：当該項目に係る事項については、更なる取組の推進が必要であった。

※複合施設の入居施設等で、当該施設の指定管理者が設備機器の保守管理等を直接実施していない場合、該当項目は「－：評価対象外」とします。

指定管理者による自己評価	令和7年度は、「つながり広がった輪の密度を高める」をテーマとし、人と人がより密につながる仕組みを構築すべく、人の力とICTの両輪を駆使し、多様な生活様式にあった様々な介護予防の取組にチャレンジしました。 具体的には、地域に密着した存在で、介護予防の効果や重要性などの情報を身近な人へ「口コミ」で発信・収集する「介護予防コネクター」を新たに養成（延べ人数207人、実人数83人）したことで、ボランティアとしての役割を創出し、高齢者のサポート体制を強化しました。 次にデジタルデバイドの解消や、高齢者の多様化した生活様式に対応すべく、ICTを活用した事業展開を進めるとともに、デジタル推進員を配置しました。 いきいきプラザ等関係機関でのオンラインレッスンの開催や、運動以外の趣味嗜好を取り入れた文化的なオンライン講座の開催、eスポーツ体験会のサポートなど、気軽に介護予防に取り組める環境を増やすことで、高齢者の社会参加を支援しました。 また、通いの場の支援については、多彩な専門職を配置し、目的や内容に合わせたチームを編成・派遣することで、アウトリーチを拡充すると共に、関係機関と連携し、専門職派遣を活用した地域包括ケアシステムの推進を図りました。 更に交流会等を通じて、学生ボランティアとの多世代交流の機会を創出することで、自主活動グループの活性化や、新たな目標設定の機会を提供しました。 これらの施策を効果的に実施するため、介護予防に関する意識調査の結果や介護予防個別支援システムから得られたプログラム参加後の効果等について、区民や関係機関へ広く発信することで、中核施設としての機能を発揮し、区全体の介護予防の推進に努めました。 令和7年度の施設利用者数は、令和6年度比103.4%の68,006人となり過去最高を更新しました。 地域の介護予防活動の支援では、関係機関や地域の通いの場などに目的や内容に合わせた専門職派遣を広く周知したことで、派遣回数においては、96件（前年74件）と前年を大きく上回り、広く介護予防を普及するとともに、社会参加と健康維持を継続的に支援しました。 自主活動グループの立上げ支援では、積極的に支援を行うことで、新たに2グループが誕生し、既存のグループと合わせ計40団体となりました。 介護予防の普及・啓発においては、昨年同様各地区の民生委員・児童委員協議会に出席させていただき、介護予防コネクター養成事業や介護予防事業の効果についての情報提供を行うことができました。
区（施設所管課）による評価	区施策への協力について指定管理者の自己評価と異なる評価としました。これは、提出書類の確認不足が多く、事業の実績報告や効果分析を円滑に行えなかった点を考慮したためです。今後は区の介護予防事業の中核施設としての責任を果たし適切な報告を行えるように指導してまいります。また設備機器の保守管理について指定管理者の管理に起因する区備品の故障があり、減点としています。 その他事業運営に関してはオンラインコンテンツを利用した事業の拡大やICTを活用した取組等、気軽に介護予防に取り組める機会を増やすことで高齢者の社会参加を促進していました。また、これまではなかった関連機関との連携強化等の前向きな姿勢がみられ、区の介護予防事業の発展に貢献されていました。

6 評価

令和7年度の管理運営に関する総合評価

A

【総合評価について（項番5における区による評価合計点の得点率）】

- S：施設の管理運営は特に優れていた（90%以上）
- A：施設の管理運営は優れていた（80%以上90%未満）
- B：施設の管理運営は適切に行われていた（60%以上80%未満）
- C：施設の管理運営に改善が必要であった（60%未満）